

復活祭第4の主日

癱者の主日

冒頭 P3 <赤本 P1 >

司祭「父と子と聖神の国は崇め讃めらる、今もいつも世々に…」に続いて

聖歌「アミン」「ハリストス死より復活し、死を以て死を滅ぼし…」3回

(♪) ハリストス^し死より^{ふっかつ}復活し、死を^し以て^し死を^{ほろ}滅し、^{はか}墓に^あ在る^{もの}者に^{いのち}生命を^{たま}賜えり。

日本語
1



ハリストス 死より 復 かつ し 死を 以て 死を 滅 ぼ ー し
 は かに ある も の に い の ち を た ま え り

日本語
2



ハリス トス 死 よ り ふ っ かつ し
 死 を 以 て 死 を 滅 ぼ し
 は かに ある も の に い の ち を た ま え り

スラブ語
3

スラブ語



ハリス トス ヴオスレ セ イ^スメル ヴイ ^スメル チ ユ ^スメル^テ ポ^ラッ
 イ ス シ^チム ヴオ ラ ベ ッ ジ ヴ^オツ ダ ロ ヴ^ア

トロパリ、コンダク

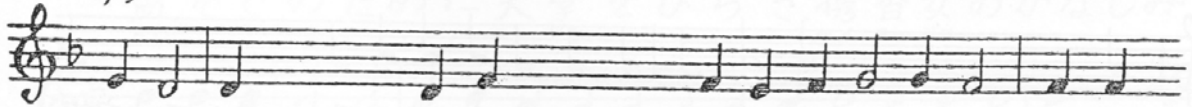
P8 <赤本 P9-13>

主日 3 調「天にあるもの」、光栄は、なん者のコンダク「主よ諸々の罪」、今もパスハのコンダク「死せざる」

3 調



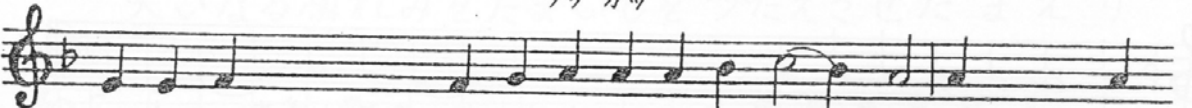
天にあるもの^{テン}たのしめよ、地にあるものよろこ



べよ、主はそのひじのちからをあらわして 死を



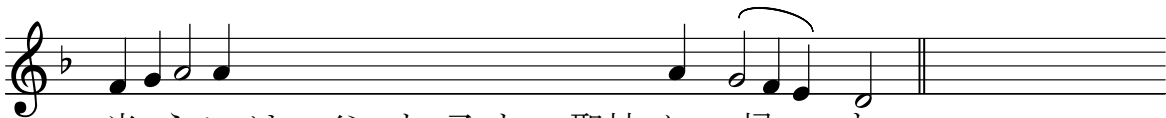
もって死をほろぼし、復活^{フクカツ}のはじめとな り



われらを地獄^{ゲゴク}のはらよりすく い、世界に大^{セカイ オオ}



いなる憐れみをたまえばなり

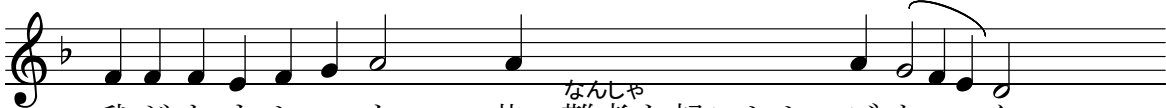


光えいは 父と子と 聖神に 帰す

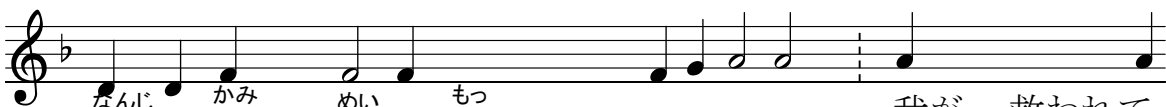
【難者のコンダク】



主よ 諸々の罪 及び 無知の 行為^{しわざ}にて大く弱りたる



我がたましいを 昔、難者^{なんじゃ}を起こしし ごとく



爾^{なんじ}の神^{かみ}たる 命^{めい}を 以^{もつ}て 起こしたまえ 我が 救われて

爾に呼ばん ため な - - り 慈憐なる ハリス トス よ
 光 えい は なんじの 権能 - に 帰 - - す
 いまも いつも 世 世 - - に アミン

【パスハのコンダク】
 死せざるハリストスかみよ、なんじは 墓かぶに くだれども、
 地ごくの 力を やぶり、 勝つものとして 復活せり、
 携香女よろこに 慶べよと 言い、 爾の使徒に平安を あたえ、
 滅びしものに 復活を たまえり。

【主や敬虔なる者】【聖なる神】へ戻る

ポロキメン

1調 主よ、我等爾を頼むが如く、爾の憐れみを我等に垂れ給へ。
 (句)義人よ、主の為に喜べ、讚栄するは義者に適ふ。

主 や 我等 汝をたのむが如く なんじの あわれ
 みを われらにた れ た まえ

聖使徒行実の読み（9：32～42）

謹みて聴くべし

か 彼の日、ペトル、^{あまね} ^{しよほう} ^ゆ 徧く諸方を行きて、^お ^{せいと} ^{いた} リッダに居る聖徒にも詣りしことあり。^{かしこ} ^{おい} 彼處に於て、^{いちにん} 彼は、一人、^{ちゆうふう} ^{うれ} 名はエネイ、癱瘋を患ひて、^{とこ} ^ふ 八年間、床に臥せる者に^あ 遇へり。ペトル、^い 彼に謂へり、

『エネイよ、^{いや} イイスス・ハリストス、爾を愈す。起きて、^{とこ} ^{おさ} 爾の床を治めよ』。

彼、^{ただち} 直に起きたり。リッダ、及び^お サロンに居る者は、皆、^き 彼を見て、主に歸せり。

イオツピヤに、^{ひとり} ^{じよと} 一の女徒、名は^{やく} ^{しか} ^い タウィファ、(譯すれば『鹿』)と云ふ者あり。彼は^{ひろ} 廣く^{ぜんじ} ^{おこな} ^{ほどこし} ^な 善事を行ひ、^{たまたま} ^{その} ^や 施済を爲せり。適、^あ ^{たかどの} 其日に、病みて死せり。彼を洗ひて^た ^{かたわら} 楼に置きたり。リッダは、イオツピヤに^よ 近きに因り、^{かしこ} ^あ 門徒は、『ペトル、彼處に在り』と聞きて、^{ににん} 二人を^{つかわ} ^{そのおそな} 遺して、其^{きた} 遅はらずして彼等に來らんことを求めたり。ペトル、^た ^{これ} ^{とも} 起ちて、之と偕に^ゆ ^{いた} 往けり。至るに及びて、^{たかどの} ^{やもめ} ^な 彼を引きて、楼に登らせ、寡婦、皆、^{かたわら} 哭きて、彼の側に立ち、^{しか} ^{とも} ^あ 『鹿』の彼等と偕に在りし時に^{うわぎ} ^{したぎ} 作りたる上衣、下衣を示せり。ペトル、^{ことごと} ^{いだ} 彼等を悉く外に出^{ひざ} ^{かが} ^{いの} ^{しこう} ^{しかばね} ^{むか} ^い し、膝を屈めて^お 禱れり。而して、屍に向ひて曰へり、

『^お タウィファ、起きよ』。

彼、^{その} ^{ひら} 其目を啓き、^さ ペトルを見て、坐せり。ペトル、^{これ} ^{さず} 之に手を授けて、^{これ} ^{おこ} ^{せいと} 之を起し、聖徒、^{やもめ} 及び寡婦を召して、^{これ} ^い 之を活ける者として^{その} 其前に立てたり。此の事、^こ ^{こと} 全イオツピヤの知る所^な と爲りて、多くの者、主を信ぜり。

アリルイヤ 5調

主よ、我長く爾の慈憐を歌い、世々に爾の真実を伝えん。

(句) 蓋、我言う、慈憐は長く建てられたり。



彼の時、イイスス、イエルサリムに上れり。イエルサリムに、羊の門の側に、池あり。エウレイの言に、『ワフェズダ』と曰ふ。之に傍ひて、五の廊あり。此の中に多くの病者、瞽者、跛者、血、枯る者、臥して、水の動くを待てり。蓋、主の使、時ありて、池に下りて、水を動かせり。水の動く後、先づ池に入る者は、何の病を患ふるに論なく、愈ゆるを得たり。彼處に、一人、三十八年、病を患ふる者ありき。イイスス、彼が臥せるを見、其之を患ふることを、已に久しきを知りて、彼に謂ふ、

「爾、愈えんことを欲するか」。

病者、答へて曰へり、

『主よ、然り。但、水の動く時、我を扶けて、池に下す人なし。我が來る時は、他人、我に先だちて下る』。

イイスス、彼に謂ふ、

「起きて、爾の牀を取りて行け」。

其人、直に愈え、其牀を取りて行けり。

是の日は、安息日なり。故に、イウデヤ人、愈されし者に謂へり、

『安息日なり。爾、牀を取るは宜しからず』。

彼、答へて曰へり、

『我を愈し者は、我に、「爾の牀を取りて行け」と言へり』。

彼等、問へり、

『爾に、「牀を取りて行け」と言ひし人は誰ぞ』。

愈されし者は、其誰たるを知らざりき。蓋、彼處に人の衆きに因りて、イイスス隠れたり。

厥後、イイスス、此の人に、殿に遇ひて、之に謂へり、

「視よ、爾は愈えたり。復、罪を犯す勿れ。恐らくは、患に遭ふこと、更に甚しからん」。

彼、往きて、イウデヤ人に、『我を愈し者は、イイススなり』と告げたり。